

鍾しんじゆぎ。それは、須す佐さ之の男おの命みことが疫えき病びやうを退たい治ちする物語ものがたり。



須佐之男命(鍾しん尙じゆ大臣)かたぢ片地かたぢこととのさん

〈舞台裏〉
奥野おくの空良くうらさん
門田かど啓けい一郎いちろうさん
錦織にしき快かいさん
藤原ふじはら優ゆう雅がさん



疫えき病びやう(疫えき神しん)ち鹿田か千ち陽やうさん



締しめ太たい鼓こりゅうや板垣い嶋じま哉さいさん



手て打うち鉦かねわたる青木あおき航くわさん



笛ふえじんざい神在かみざい紗さ那なさん



大お太た鼓たいこゆずき田部たべ袖すそ季きさん

～夢の舞台へ～ 神楽を愛する高校生の物語

高校生の神楽甲子園で神楽を舞う10人の高校生。演目は鍾尙。『飯南町の力になりたい』と選んだ演目です。今月は飯南高校神楽愛好会を取り上げます。

日芸選奨を目指して

令和3年7月24日～25日、広島県安芸高田市の神楽門前湯治村。敷地内の神楽ドームで開催されたのは、第10回「高校生の神楽甲子園」です。今年には15の高校が出場し、最も優れた団体に贈られる「日芸選奨」を目指しました。

初日の7番目、舞台に立ったのは飯南高校神楽愛好会。笛の音色が会場を包むと、大きな拍手が巻き起こり、太鼓や手打鉦の音も加わります。そして、鍾尙大臣と疫神が気迫に満ちた台詞を述べながら、激しい立ち合いを披露しました。

「新型コロナウイルス感染症が猛威を振う中、以前のような元気を取り戻そうとしている飯南町の力になりたい」と、神楽愛好会のメンバーが選んだ演目は「鍾尙」。鍾尙大臣が疫神を退治する物語です。



「日芸選奨」にこそ選ばれなかったものの、悔いのない演舞に笑みを浮かべる

仲間集めに苦戦。それでも揃った仲間たち

この日のために神楽の練習を始めたのは昨年5月。神楽愛好会のメンバーはわずか4人でした。「鍾尙」を舞うには最低6人必要で、ここから仲間集めが始まります。

「メンバーが揃わないかもしれない」「新型コロナウイルス感染症で神楽甲子園が開催されないかもしれない」。そんな不安がメンバーの頭をよぎる中、メンバーを突き動かしていたのは「神楽甲子園に出よう」という想いでした。地道な声掛けの末、6人、9人と仲間も増え、今年4月に10人に。10人揃ったことで、表舞台の配役も、舞台裏の役割も自分たちでまかなえるようになりました。

そんな神楽愛好会をこれまで支えてくれたのは、飯南神楽団や地域の皆さん、そして、保護者の皆さんでした。



飯南神楽団の皆さんに教えてもらう時の顔は真剣そのもの

大好きな神楽を続けていきたい

「これまで支えてくれた皆さんに感謝し、全力で楽しみながら舞い、奏でることで恩返しをしたい。飯南町だけでなく、演目を見てくれた全ての人に元気を与えたい」という気持ちで挑みました。こう話すのは、主将の神在紗那さんです。

神在さんはメンバーの中で唯一の3年生。1年生の時に神楽甲子園を経験し、2年生の時は新型コロナウイルス感染症の影響で神楽甲子園が中止になったため、「もう一度神楽甲子園に出場する」という夢は叶いませんでした。

「思い返すと、昨年5月から神楽甲子園出場までの時間は濃厚で、あつという間に過ぎました」と神在さん。これまでメンバー同士のぶつかり合いも多くあつたといえます。「大変だったけど、神楽甲子園出場の夢は叶いました。鵬雲祭を最後に、神楽愛好会を卒業しますが、これからも大好きな神楽を続けていきたいです」と神在さん。

神楽愛好会10人の最後の舞台は、8月26日(木)の飯南高校鵬雲祭。新型コロナウイルス感染症対策のため、一般の方は生で観覧できませんが、10月中旬以降にケーブルテレビで放映される予定です。